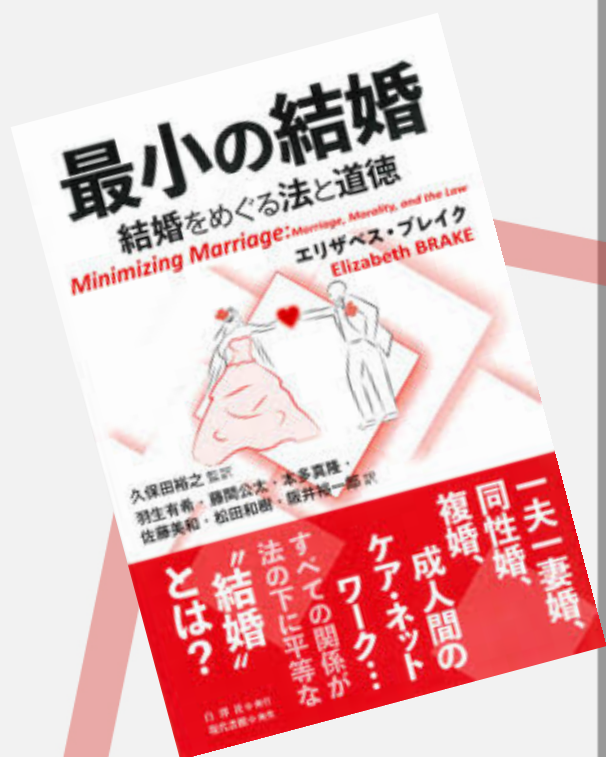


結婚をめぐるジレンマ —『最小の結婚』合評会

社会制度としての結婚は、私たちの生を保障するものでもあり、損なうものでもある。このようなジレンマに対して、結婚の制約を取り払いつつ、ケア関係のみを保障するものとしてそれを政治的リベラリズムの立場から再構築しようとするE・ブレイクの『最小の結婚』は、一つの優れた、しかし論争含みの応答を呈している。

この合評会形式のイベントでは、昨年11月に出版された日本語訳の訳者と、関連領域の専門家である評者のみなさんにお話しいただく。本書の意義を捉え、また、結婚について考えなおす契機としたい。



登壇者（敬称略）：

久保田裕之（日本大学教員、『最小の結婚』監訳者）

岡野八代（同志社大学教員、評者）

川本隆史（国際基督教大学教員、評者）

堀江有里（国際基督教大学等 教員、日本基督教団牧師、評者）

コーディネータ：

羽生有希（CGS 研究所助手）

日時：2020年2月8日（土）14:00-18:00

場所：国際基督教大学本館116号室

国際基督教大学ジェンダー研究センター Center for Gender Studies @ICU

181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2 国際基督教大学第一教育研究棟 (ERB-I) 301

[Tel]0422-33-3448 [Fax]0422-33-3789

[E-mail]cgs@icu.ac.jp

